

### 1-2-③ 舞鶴市の小・中学校と学校図書館を知る

#### ● 小中学校に通う児童生徒にとって最も身近な読書/情報環境は学校図書館

舞鶴の小中学校は「朝読/家読」が盛んだが、資料費と学校司書配置に課題が予見される。

#### ● 公共図書館/学校図書館連携のために、学校図書館のいまと目指す将来像を知りたい

舞鶴市の小中学校は12クラス未満校の比率が高く、これまでの文科省「学校図書館図書整備等5カ年計画」の掲げる3方針が周知されていない状況がヒアリングで確認されます。学校図書館との連携を提言されている図書館協議会の協議資料から類推して、手だてを考えてみると、まず学校教育課や教育研究会学校図書幹部会のお話を聞くところから、舞鶴市の学校図書館のいまと将来像の方向性を知らなければいけないようです。そして、文科省の掲げた3方針と学校教育のあり方改革への共感と理解のさきに、この基本計画が導かれるよう類推されます。全国では資料充実と学校司書配置が取組まれています。

■舞鶴市の学校と学校図書館の活動統計：今後、下表空欄が埋まり研究が進みますよう。

18小学校名	C L	児童数	資料費 (学校/年間)	貸出総数 (学校/年間)	貸出冊数 (児童1人年)
新舞鶴小	20	585	271000円	冊/年	冊/人年
三笠小	6	144	58000円	冊/年	冊/人年
倉梯小	17	459	222000円	冊/年	冊/人年
倉梯第2小	12	248	89000円	冊/年	冊/人年
与保呂小	6	126	106000円	冊/年	冊/人年
志楽小	14	368	173000円	冊/年	冊/人年
朝来小 ☆	6	121	市:55000円 198460円	☆ 754冊/年	14.5冊/人年
大浦小	6	52	56000円	冊/年	冊/人年
中舞鶴小	8	230	75000円	冊/年	冊/人年
明倫小	12	284	82000円	冊/年	冊/人年
吉原小	5	33	51000円	冊/年	冊/人年
余内小 ☆	20	362	82000円	☆ 25,000冊/年	69冊/人年
池内小	5	43	51000円	冊/年	冊/人年
中筋小	13	628	208000円	冊/年	冊/人年
福井小	6	100	54000円	冊/年	冊/人年
高野小	6	136	59000円	冊/年	冊/人年
岡田小 ☆	6	71	62000円	☆ 338冊/年	4.8冊/人年
由良川小	5	46	52000円	冊/年	冊/人年
小学校合計	175	4036	1806000円	冊/年	冊/人年

※11小学校が12クラス未満。司書教諭有、全校に学校司書不在。

7 中学校名	C L	児童数	資料費 (学校/年間)	貸出総数 (学校/年間)	貸出冊数 (生徒1人年)
青葉中	15	527	243000円	冊/年	冊/人年
白糸中 ☆	12	435	228000円	☆ 488冊/年	1.1冊/人年
和田中	3	103	83000円	冊/年	冊/人年
城南中	12	413	244000円	冊/年	冊/人年
城北中	13	442	141000円	冊/年	冊/人年
若浦中	4	113	79000円	冊/年	冊/人年
加佐中	3	64	68000円	冊/年	冊/人年
中学校合計	62	2097	1077000円	冊/年	冊/人年

※3中学校が12クラス未満。司書教諭有、全校に学校司書不在。

※児童生徒数の出典：令和3年5月統計

☆印の4校学校図書館を訪問見学しました。

生徒児童1人 年間図書費	平成21年	平成27年	令和元年
小学校	974円/児童	1449円/児童	464円/児童
中学校	1551円/生徒	1959円/生徒	592円/生徒

#### ※学校図書館の全国的動向

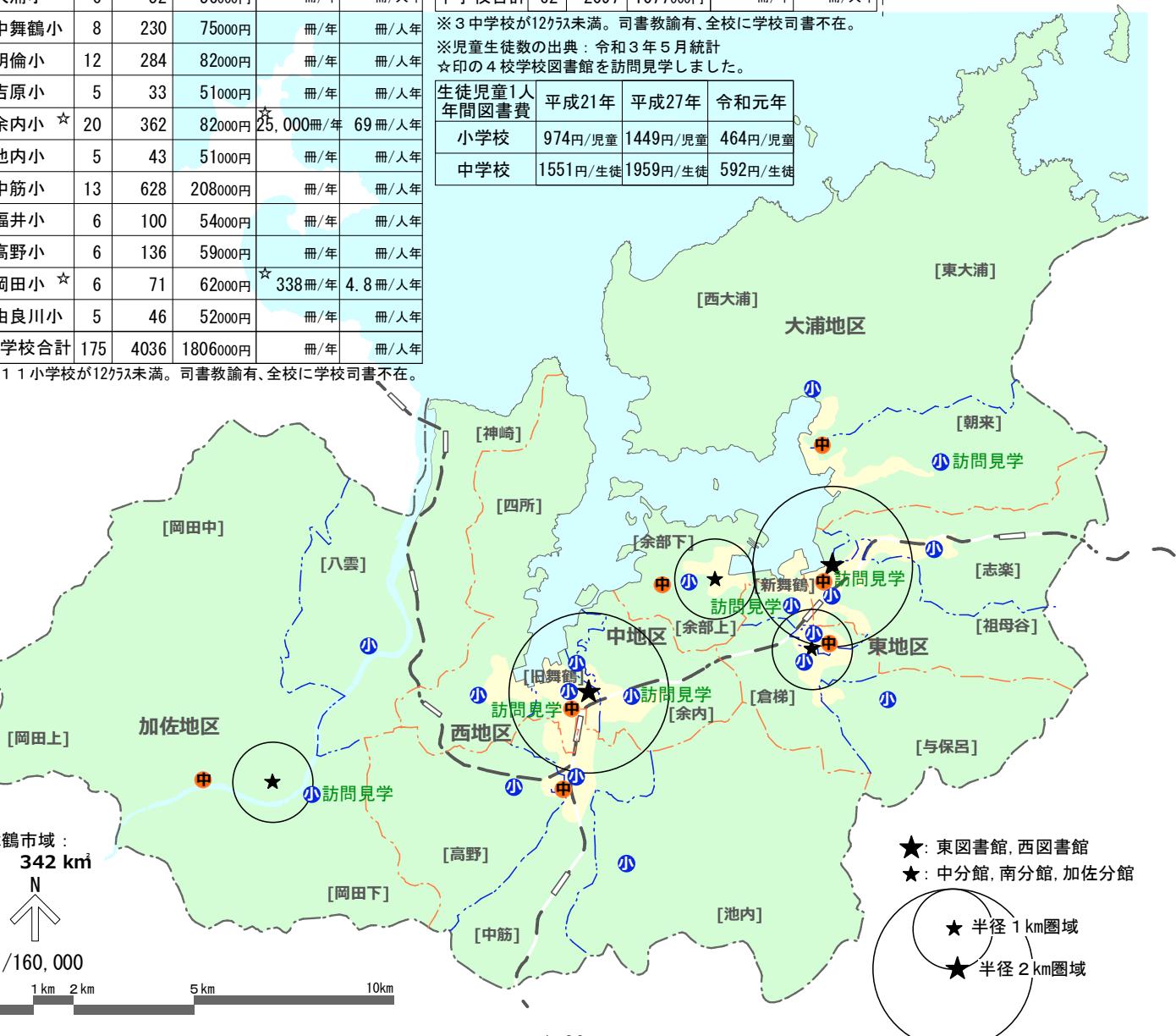
2017年度からの文科省施策の「第5次学校図書館図書整備等5カ年計画」も是迄と同じく

- ・学校図書館図書標準の達成
- ・学校図書館への新聞配備
- ・学校司書の配置拡充
- ・図ることを掲げて、各自治体に地方交付税措置を増額。

※「学校図書館の出番です」  
アクティブラーニングの視点に立った学びに向けて：学校図書館整備推進会議編、参照

※左表は、全国の学校図書館で作られている活動統計表です。生徒一人当たりの貸出冊数と資料費が相関して成長する様子を経年追跡で確認できます。  
・舞鶴でも、今後のこの試みが経年確認や先進他都市比較で有益な指標になると思われる。

● 小学校 ——— 小学校区  
● 中学校 —— 中学校区



## ◆ 参考資料：地方自治と図書館（学校図書館）

〈出典：としょかんのTOMOみなみそうま 会報〉

### 《福島の図書館を育てる市民の会～40周年記念事業～に参加して》



現在、伊万里市民図書館名誉館長

2016年12月10日福島県立図書館講堂にて、片山善博氏（慶應義塾大学法学部教授）をお迎えし、40周年記念講演会「地域づくり・人づくりと図書館」が開催されました。

以下、“育てる会”会長による要約文を、ご厚意により、転載させて頂ける事となりました。感謝申し上げます。  
(としょかんのTOMOみなみそうま 事務局)

片山善博氏は鳥取県知事・総務大臣を務められ、気鋭の論客として著名である。片山氏は著や各地での講演で「図書館は『知の拠点』であり、考える力を養う役割を持つ大切な機関である」と論じておられる。この度、念願が叶い片山氏講演会が実現し、力強い示唆をいただいた。

#### ○地方自治と図書館

図書館は地方自治にとって重要だけれど、光が当たっていない。地方自治の中で図書館を正当に位置付けることが、市町村や県の活力を生み出す。図書館は生涯学習の基盤である。生涯学習とは、生まれてからずっと続くものであり、一時期を学校で、また、現役で働いている時も、退職してからも、そして、子育て中にも行われる。

#### 【鳥取県知事時代に県庁で実施したこと】

図書館が行政機関にとって役に立つことを実感してもらいたいと考え、**県庁内図書室を設置した。本はほとんどなく、優秀な司書を二人置き**、資料は近くの県立図書館から取り寄せた。今まででは、国から言わされたことをそのままやるだけだったが、図書館を使うことにより、県庁職員自身が施策を考えて作るようになった。その成果を中央官庁の役人が見に来るようになり、県庁職員の成功体験となって、以来、自信につながり、**県庁内で図書館がリスペクト（尊重）され始めた。**

#### ○地方教育行政と図書館

県立や市町村立の図書館を管理運営するのは、県や市町村の教育委員会である。

#### 【教育委員会の役割】

教育委員会は5~6人の委員と委員長からなる合議制の制度であり、会社でいえば取締役会のようなものである。教育委員会の下に教育長や学校教育課や生涯教育課（事務局・職員）がある。しかし、名譽職となってしまった教育委員会には経営者としての自覚がないことが問題だ。図書館経営も教育委員会がしっかりとていれば、予算を獲得し正規司書を雇用できる。教育委員会事務局では教員がほとんどだが、図書館司書も配置されるべきだろう。

また、教育というものは難しく重要な分野であり、政治的中立性を保ち変容なく安定していかなければならない。それで多様な意見を吸収しバランスをとるために合議制になっている。しかし、現状は事務局の話を聞くだけで、多様な意見を聞くことはほとんどない。**教育委員会の会議は一般公開が原則だが司書や利用者から直接話を聞く機会もない。**

日本が手本としたアメリカの教育委員会は一般人の意見も聞いている。この点も見習うべきだ。

#### 【慶應義塾大学のゼミでの実践例】

ゼミのフィールドワークとして**市議会傍聴と教育委員会会議傍聴を課題にしている**。はじめは断られたが、何度も粘った結果、今では毎年の傍聴が恒例になっている。

#### 【鳥取県の学校図書館の事例】

県立高校に正規司書がいなかったので2~3年計画で全国公募により正規司書を配置、優秀な司書が集まり、現在中堅として活躍している。

小中学校は市町村管轄だが、県も予算措置をしながら学校司書配置を進め、非正規で問題だが98%配置している。

#### 【島根県】

学校図書館研究会全国大会で、開催挨拶にきた溝口知事が、分科会に参加し、図書館は重要であること学び、**知事指導で学校司書配置100%にした。**

#### 【横浜市】

横浜市は小中学校図書館の司書配置率0%であった。横浜市長林文子氏に会う機会があり、その問題が話題になった。以後**3カ年計画で小中 500校に 100%配置された。**

**この島根県や横浜市の件は本来教育委員会の仕事であり、首長が言うのは邪道である。残念ながら、教育委員会が名譽職で形骸化の実例である。**

#### ○図書館と地方議会改革

議会図書室は議員の自立した知の拠点である。地方自治法第100条の中に議会図書室が位置づけされ、どこの自治体にもある。

100条は強い調査権を持ち、議員の重要な政策や質問作りに必要である。当然議員図書室に司書が配置されてこそ機能する。

#### 【アメリカ・シアトルの話】

財政難で図書館を民間委託、分館を減らす、行政案が出た時、議会が特別委員会設置し、市民の意見を聞くシステムをつくった。何日もかけて、広く市民に意見聞き、議員がその大勢の意見を、評価し、考えて、議会提案したという実例がある。これこそ本当に生きた議会である。

日本は？知事も議員も知らないうちに予算がカットされてたりするというとんでもない場合がある。

#### ○「地方創生」と図書館

地方から若い人がいなくなる。理由は地域に魅力ある雇用が少くなり、給料が安くて若い人ワーキングプラーの進んでいることが大きいと思われる。図書館は『知の拠点』であり、考える力を養う役割を担う機関であるから、起業など「地方創生」を支える上で重要な基盤となる。

#### ○図書館をめぐる最近の情勢

現在、国が公共施設の指定管理者制度・外部委託や民間委託を奨励している。無論、図書館も含まれている。財政難に苦しむ自治体が図書館に指定管理者制度導入を選択している所が増えている。**佐賀県の武雄図書館**が成功例などとして注目されているが、図書館に指定管理者制度導入した結果、**図書館職員が非正規になり、郷土資料や地域の歴史など貴重な文化を追いやっている。これでは図書館とは言えない**。国の言っていることは正しいかどうか、“自分たちで自立して考える”ことが重要。市民も、議員も、行政もそんな見解を持ちたい。

“図書館は、議会や自治体が正に認識し、市民と育てるもの” この日、講演会には、頗もしいことに、福島市議会議員が7人が会場の最前列に並びました。これから議員活動に大いに期待したいものです。あの素晴らしい講演の内容を伝えきれず、要約になりました。只今、講演録の準備中です。まもなく希望者にはお届けします。講演を思い返し、さらに認識を深めましょう。

(まとめ 新田琴子)

※参考文献：片山善博『民主主義を立て直す』岩波書店 2015年／片山善博『片山善博の自治体自立塾』日本経済新聞社 2015年  
片山善博・糸賀雅児『地方自治と図書館』勁草書房 2016年

## 1-2-④ 「必要課題」と「要求課題」を考える

### □計画にあたって市民の声を聞くということ

舞鶴市では、図書館協議会の「意見書」をうけて、これをもとに市民意見をアンケートで聴取し確認しています。利用者や図書館に関心を持つ方々の意見要望は、大いに計画の参考になります。直接的に聞くことが出来る要望は「要求課題」と考えられます。しかし、市民の半数を超える未登録者や、いまここに居ない未来の市民の声が聴けてはいません。そこで、まだ見ぬ将来の社会ビジョンにつながる「必要課題」については、国や先進都市の図書館政策との比較研究や、舞鶴市の環境や暮らしに係るまちづくりの施策に照らして、図書館基本計画で考える「図書館再編」に必要な課題の整理を行っていきます。

### □図書館と公民館、類縁機関 訪問面談聞き取り

■東図書館  2021年10月22日 竹之内館長 河田主任	■西図書館  2021年10月21日 西躰館長 岡山主任	■中分館  2021年10月21日 三浦氏	■南分館  2021年10月22日 前羽館長 澤野氏	■加佐分館  2021年11月10日 澤田館長 眞下司書	■大浦会館  2021年11月11日 澤田氏 河合司書
■郷土資料館 ★  2021年11月11日 吉岡館長	■市議会図書室  2022年1月17日 松浦係長、藤原氏 ■総務課図書コーナー <sup>★</sup> 2022年1月17日 多田課長	■まなびあむ ★  2021年10月22日 福田館長	■あそびあむ ★  2022年1月17日 野口副所長 根兵保育士	■松尾寺駅舎 ★ ■salon de RURUTEI 2022年1月18日 片山代表 砂田さん	◇図書館協議会 ★ 意見書 (R 2) ◇図書館協議会 研究書(案) (R 3)

### □学校図書館と小中学校教育研究会 訪問面談聞き取り

■岡田小学校 ★  2021年10月21日 野田校長	■朝来小学校 ★  2021年10月22日 吉谷先生 櫻井先生	■余内小学校 ★  2021年10月21日 岡西先生	■三笠小学校 ★  2021年11月10日 畠本先生 金岡先生	■白糸中学校 ★  2021年10月22日 谷先生	■城北中学校 ★  2021年11月12日 小谷先生
■小学校教育研究会 図書館教育部会 2021年11月10日 ★ ■三笠小学校 ★ 畠本先生 金岡先生	■中学校教育研究会 図書館教育部会 2021年11月12日 ★ ■城北中学校 ★ 小谷先生		■学校教育課 ★  2021年11月12日 森下課長 岡本課長		□文科省の施策 (R4年度) ◇第6次学校図書館 図書整備等5ヵ年 計画 概要資料 (文科省HP)

### □行政関係課グループヒアリング 面談聞き取り

■学校教育課 ★  2021年11月12日 森下課長 岡本課長 △舞鶴市教育振興 大綱(H31)	■福祉企画課 ★  2021年11月12日 松本課長 ■障害福祉課 2021年11月12日 島田課長	■観光振興課 ★  2021年11月12日 山内課長 森下係長	■地域づくり支援課 ★  2021年11月12日 飯田課長 佐藤係長 亀井氏	■都市計画課 ★  2021年10月22日 坂田係長 柏分氏 △舞鶴市立地適正化 計画(H26)	■資産マネジメント 推進課 ★  2021年11月12日 岩田課長 佐野係長 △舞鶴市公共施設 再生基本計画(H26)
--	--	---	--	--	---

※資料提供◇舞鶴市地域公共交通計画(R3)

### □市民グループ、図書館類縁ボランティアグループ 面談聞き取り

■ふしぎの国 ★  2022年1月18日 井上さん 石橋さん	■おはなし玉手箱 ★  2022年1月18日 杉浦さん 須崎さん 美矢さん	■おはなしキャラバン たんぽぽ ★  2022年1月18日 根津会長、大田さん 北さん、後藤さん 米田さん	■読書会の皆さん ★  2022年1月18日 越後さん 杉本さん	■チームまなざし ★ ■あい丹後 2022年1月18日 神田理事長 堤相談員 千原さん	□市民アンケート (令和元度) ◇1,322人市民回答 ★ ◇386件自由記述意見 (舞鶴市公式HP) ★
--	--	---	--	--	--

※アンケートには登場しない声  
利用していない人、したいと  
感じない人、遠くに暮らす人、  
移動手段が困難な人、入院や  
入所で外出できない人、学校  
が忙しくて暇のない児童生徒、  
まだ生まれていない将来の舞鶴市民たち。  
彼らの要望を付度しひじょう  
を計画に示すのが行政の仕事。

※下表の訪問聞き取りのうち、  
★印の聞き取りと資料は、  
卷末の資料編に記録を掲載。

### 1-3-① 日本(各都市)の図書館サービスの到達点とその指標

#### □一年間の貸出し120万冊、市民1人年間貸出し17冊の図書館時代を迎えて

日本の公共図書館は、1947年「教育基本法」による目的の明示、1950年「図書館法」による図書館奉仕の理念、1970年日本図書館協会刊『市民の図書館』による取り組むべき3つの活動の柱の提示を契機に発展を続けてきました。その図書館活動の3つの柱とは、

- ① 市民の求める図書(情報)を自由に気軽に貸し出すこと
- ② 児童の読書(情報)要求にこたえ、徹底して児童にサービスすべきこと
- ③ あらゆる人々に図書(情報)を貸し出し、図書館を市民の身近に置くために、  
全城にサービス網をはりめぐらすこと

でした。その後に50余年をかけて、かつて一部の利用者のものでしかなかった図書館は、「いつでも、誰でも、どこに住んでいても、どんな資料(情報)でも、利用できる」という図書館を目指して、さまざまな要求に応え、役に立つ進化(深化)を続けています。その成果は、図書館統計の「年間貸出し冊数」や「登録率」「市民一人年間貸出し冊数」など定量評価や、図書館への信頼の証の「レファレンスの広さ深さ」など定性評価から読み取れます。他方、質と量の統計からは全国図書館の格差拡大も顕著に見えてきます。

#### □舞鶴市の図書館サービス(図書館政策)の目指す将来の指標を考えるために

ここで、舞鶴市図書館サービスの課題と目標を検討するにあたり、同規模人口の都市(6万人~10万人)の図書館439館を基にして、年間50万冊以上を貸出した43館を選出し統計比較表を作っています。またその中で、図書館政策を類推させる5つの指標ごとに、上位12館を整列させています。また、舞鶴市は市域が342km<sup>2</sup>と広く、全域へのサービスが難しい地勢であることから、類似する2市の統計を併記しています。

図書館施策の3要素は、資料と職員と施設と言わされてきました。それぞれに専門性と適正な施策投資が求められ、投資に対する施策効果(利用と受益者満足)が検証されます。供給が需要を掘り起こす、有効な施策の選択と集中(SDGs)を、先進事例の統計から学びたいと考えます。そこに、舞鶴市図書館サービスの「のびしろ」を確認するのです。

#### □5つの図書館サービス(図書館政策)の指標から考える

- ※舞鶴の当面目指す図書館政策指標を例示都市政策統計から、どう想像してゆくか?
- ・貸出密度: 市民一人年間貸出冊数。 現状(市内) 3.7冊→ 8冊/人年
  - ・職員体制: 奉仕対象人口/専任職員数5人。現状 15,950人→ 8,000人
  - ・資料費: 年間資料費/奉仕対象人口。 現状 158円→ 400円/人年
  - ・蔵書冊数: 総蔵書冊数/奉仕対象人口。 現状 3.4冊→ 5冊/人
  - ・施設面積: 総施設面積/人口100人。 現状 2.66m<sup>2</sup>→ 5m<sup>2</sup>/人
  - ・登録率: 市内登録者数/奉仕対象人口。 現状(町々集計より) 35%→ 50~70%

※左記の現状指標は令和2年度の  
図書館年報を典拠とする。  
人口: 79,743人  
・年報の登録者数は分館分重複あり  
・下表値は令和元年度全国統計値

順位 トップ12	貸出密度 奉仕人口1人当たり 年間貸出冊数 (冊)	職員体制 中央館専任職員1人当たり 奉仕対象人口 (千人)	資料費 奉仕人口1人当たり 年間資料費決算額 (円)	蔵書冊数 奉仕人口1人当たり 中央館の蔵書冊数 (冊)	施設面積 人口100人当たり 本館分館総床面積 (m <sup>2</sup> )
1	守谷市/守谷中央 <b>17.7</b>	袖ヶ浦市/市立中央 <b>5.33</b>	白河市/ <b>756</b>	袖ヶ浦市/市立中央 <b>8.89</b>	大村市/*県立と合築 <b>12.21</b>
2	大府市/おおぶの杜 <b>17.3</b>	白河市/市立 <b>6.78</b>	みよし市/ <b>733</b>	田原市/市中央 <b>7.16</b>	袖ヶ浦市/ <b>10.64</b>
3	笠間市/ 笠間 友部(同等2館) <b>16.4</b>	南相馬市/市立中央 <b>6.78</b>	塩尻市/ <b>625</b>	守谷市/守谷中央 <b>6.38</b>	田原市/ <b>9.53</b>
4	稲城市/稲城市中央 <b>12.8</b>	笠間市/ 笠間 友部(同等2館) <b>7.60</b>	守谷市/ <b>621</b>	笠間市/ 笠間 友部(同等2館) <b>6.18</b>	甲賀市/ <b>8.85</b>
5	守山市/市立 <b>12.1</b>	みよし市/市立中央 <b>7.63</b>	守山市/ <b>586</b>	塩尻市/市立 <b>6.09</b>	笠間市/ <b>7.93</b>
6	三木市/立中央 <b>11.7</b>	君津市/市立中央 <b>7.73</b>	南相馬市/ <b>517</b>	君津市/市立中央 <b>5.98</b>	東松山市/ <b>6.87</b>
7	京田辺市/市立中央 <b>11.3</b>	阿南市/ 那賀川 <b>8.22</b>	大村市/ <b>507</b>	南相馬市/市立中央 <b>4.61</b>	日進市/ <b>6.70</b>
8	みよし市/市立中央 <b>10.8</b>	田原市/市中央 <b>9.00</b>	神栖市/ <b>495</b>	白河市/市立 <b>4.57</b>	白河市/ <b>6.59</b>
9	福津市/福津市立 <b>10.8</b>	大村市/市立 <b>9.60</b>	笠間市/ <b>482</b>	守山市/市立 <b>4.35</b>	福津市/ <b>6.28</b>
10	白河市/市立 <b>10.7</b>	守谷市/守谷中央 <b>9.71</b>	安曇野市/ <b>455</b>	多賀城市/市立 <b>4.29</b>	南相馬市/ <b>6.27</b>
11	多賀城市/市立 <b>10.0</b>	東松山市/市立 <b>10.00</b>	田原市/ <b>450</b>	大府市/おおぶの杜 <b>4.23</b>	みよし市/ <b>6.24</b>
12	日進市/市立 <b>9.9</b>	栗東市/市立 <b>10.00</b>	袖ヶ浦市/ <b>439</b>	みよし市/市立中央 <b>4.20</b>	近江八幡市/ <b>6.23</b>
広域な 市勢が 類似の 図書館	君津市/市立中央 <b>7.5</b>	君津市/市立中央 <b>7.43</b>	君津市/ <b>313</b>	君津市/市立中央 <b>5.98</b>	君津市/ 市域 319km <sup>2</sup> <b>5.76</b>
	南相馬市/市立中央 <b>6.0</b>	(被災地) 南相馬市/市立中央 <b>6.78</b>	南相馬市/ <b>517</b>	(被災地) 南相馬市/市立中央 <b>4.61</b>	南相馬市/ 市域 399km <sup>2</sup> <b>6.27</b>
	福知山市/市立中央 <b>7.5</b>	福知山市/市立中央 <b>11.14</b>	福知山市/ <b>297</b>	福知山市/市立中央 <b>2.95</b>	福知山市/ 市域 552km <sup>2</sup> <b>3.95</b>
舞鶴市	東館 西館(同等2館) <b>3.7</b>	舞鶴市 東館 西館(同等2館) <b>20.75</b>	舞鶴市/ <b>83</b>	舞鶴市 東館 西館(同等2館) <b>2.84</b>	舞鶴市/ 市域 342km <sup>2</sup> <b>2.55</b>

出典: 年報「日本の図書館-統計と年報 2020」(人口6~10万人自治体図書館) 日本国書館協会



### 1-3-③ 舞鶴市の図書館のサービスと施設の課題を考える

- 新自由主義的社會やコロナ疾病対応社會では、社會・經濟の狀況が大變化に押し流され、「各種の格差」が広がっている実感がある。
- 特に「所得格差」は、その挽回手段である有料資料情報へのアクセス面において、市民一人ひとりの「情報格差」を派生させている。
- そもそも図書館は、市民ニーズに応え「資料・情報への公正なアクセス」を確保し「學習・課題解決への支援」が使命とされている。
- 今日の社會においては、図書館は「社會教育機関」であることを超えて、「社会的包摶の一翼」を担わなければならない状況にある。
- 図書館は「市民生活に関わり、つながる場」であり、サービスは「社会經濟の変動をとらえ、市民の情報ニーズに応える必要」がある。
- また図書館は、「地方自治を支える体制や、地域そのものの活性化に寄与」して、「舞鶴という地域社會を支えなければならない」

●現在全国の 図書館政策・サービス・運営・施設群は、上のような社会的課題や要求に呼応しているものであると考えます。

#### □舞鶴市図書館のいま・その7つの課題

舞鶴市図書館の利用・資料・施設の視点から、7つの課題を整理します。

##### ■町住区別利用登録（令和2年度）

地域	地域人口	貸出冊数	人口一人当たりの貸出冊数	登録者数	登録率
東大浦	753	1,169	1.55	164	22%
西大浦	1,120	3,005	2.68	286	26%
朝来	2,667	9,219	3.46	1,009	38%
志楽	5,299	19,419	3.66	2,751	52%
与保呂	2,723	7,569	2.78	789	29%
倉梯	13,692	38,558	2.82	4,303	31%
祖母谷	4,042	19,126	4.73	1,793	44%
新舞鶴	8,617	25,669	2.98	3,048	35%
中舞鶴	7,427	16,543	2.23	2,190	29%
旧舞鶴	8,091	20,858	2.58	3,240	40%
余内	7,642	24,006	3.14	2,866	38%
四所	2,434	5,855	2.41	780	32%
高野	2,851	10,611	3.72	1,129	40%
中筋	8,754	47,628	5.44	3,293	38%
池内	1,389	3,730	2.69	401	29%
岡田上	612	665	1.09	85	14%
岡田中	524	531	1.01	108	21%
岡田下	767	777	1.01	139	18%
八雲	1,082	1,248	1.15	257	24%
神崎	471	324	0.69	91	19%
市内計	80,957	256,510	3.17	28,722	35%
市外計		1,324		385	
合計		257,834		29,107	

- 居住人口の減少率を超える「市民の図書館利用の低迷」がつづいている。(登録率減少・貸出冊数減衰)
- 「施設的な魅力として限界」(環境の広さ、図書収容力、老朽化、維持継続のための改修投資の有益性に疑問)
- 図書館政策投資効果、実績と図書館への市民的な支持共感に負のスパイラルが表れる。(政策投資と市民満足度の相関性)
- 現代的切実な「社会の要求」と現実の「図書館サービス」とのズレが推測される。(格差・弱者支援・社会包摶)
- 「都市環境 / 市民の暮らし」と「図書館サービス体系/体制」とのズレが推測される。(地域別の利用格差・身近さ)
- 図書館分館・学校図書館ほか「地域サービス拠点の充実策」の政策的関心が低かった。(市民からの信頼/需要の萎縮)

#### □町住区ごとの「図書館登録率」と「ひとり年間貸出冊数」から類推する

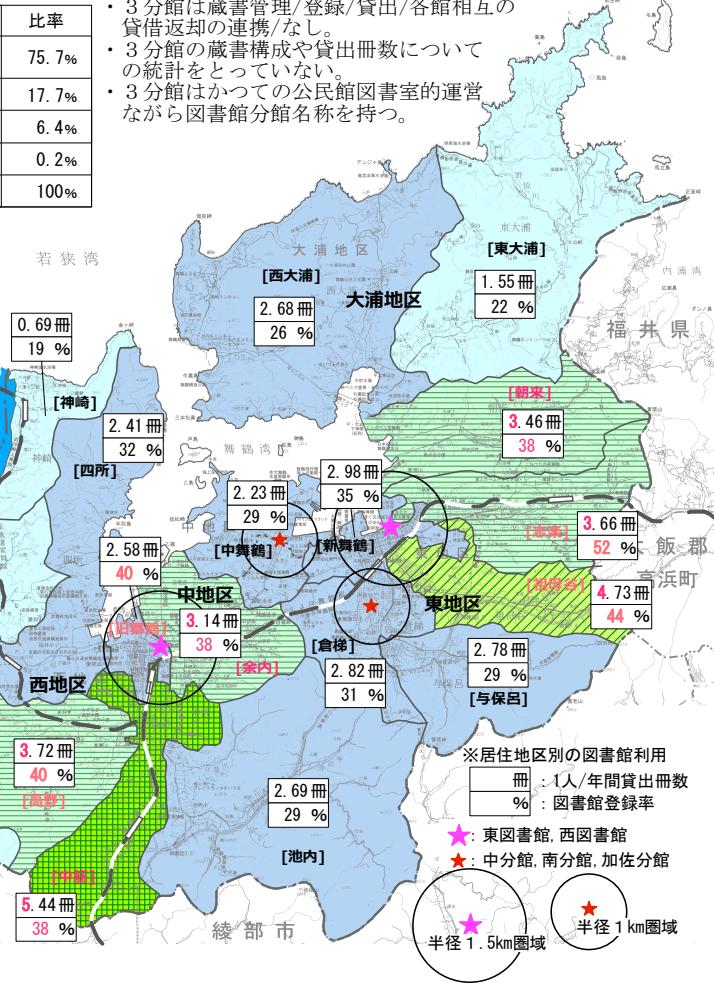
舞鶴市は、東西2極の中心市街地に対応して東西図書館がサービス展開しています。しかし、図書館に近く比較的利用の高い7町住区でも、市民一人年間貸出冊数は全国平均値を越えていない状況が、左表で読み取れます。このサービス成果の経年的な停滞の原因を明らかにして、改善の方向性を計画する視点をこの基本計画は重視します。

現代の図書館サービスの3つの柱のひとつである「全域奉仕」が充分に効果を上げていないと、ここで計画の仮説をたてます。

##### ■4館別利用登録（令和2年度）

	登録者数	比率
東図書館	29,107人	75.7%
西図書館	6,785人	17.7%
中分館	2,473人	6.4%
加佐分館	79人	0.2%
合計	38,444人	100%

- 3分館は蔵書管理/登録/貸出/各館相互の貸借返却の連携なし。
- 3分館の蔵書構成や貸出冊数についての統計をとっていない。
- 3分館はかつての公民館図書室的運営ながら図書館分館名称を持つ。



## ◆ 舞鶴市の図書館と類縁機関の施設的課題

### □ふたつの同規模の中心館、東館と西館の課題とは：

- 開館30年、床面積約1000m<sup>2</sup>、同規模資料世界を持つふたつの中心館は同様な課題を抱える。
- 9万冊程で収容限界を迎えた、利用席スペースも狭い開架室。
  - 4万冊程収蔵で満杯。集密書架導入に床強度不足の閉架書庫。
  - 開架資料の配架や書庫資料整理の統合が出来ない二館体制。
  - 図書館員の配置ローテーションや連携が難しく、非効率な現二館体制。  
(アトリーチャービスや夜間開館の人員配置増や人件費増大への方策が難しい)
  - 全市域サービス展開へのBM書庫や車庫が増築できない裏方。
  - 防水、水回り改修、など施設維持改修は時期が同時で費用が二倍。
  - フロンガス空調設備交換は天井内装の解体復旧を伴う大工事となり、工事休館や工費捻出が近い将来に同時に想定されているが、投資に対する上記図書館機能サービスの改善効果が期待できない。

☆ 目指す方向性は、

- 舞鶴市全域につながる〈図書館システム(中央館 + 分館群 + BM + サービス拠点群)〉の再編
  - 舞鶴市全域サービスを動かす中枢運営施設〈センターとしての中央図書館〉の整備
  - 専門性が深く、広い情報世界を表出できる〈地域生活に役立つ中央図書館〉の創出
- ☆ 現東・西図書館の全市図書館システムにおける将来的あり方は、計画編で総合的に位置づけます。

- ・現状施設維持に係る課題。
- ・中央図書館への機能発展に係る課題。
- ・改修費用投資に係る課題。
- ・中央図書館への投資効果に係る課題。

### □公民館図書室のような3分館の課題とは： <2C + 3B> → <1C + 5~6B + BM>

（C:センター中心、B:ブランチ分館、

- 図書館分館(南公民館・中公民館・加佐公民館)名称だが、旧来の公民館図書室機能であり、近隣在住の固定的利用者に利用されている。運営に専門性蓄積や中央館連携や機能分担がなく、孤立無援的な苦境と展望が見えるが、全域奉仕の重要な拠点であり改善が望まれる。BMアトリーチャービスと連携する地域奉仕拠点として以下の課題への解決方策が必要になる。
- 資料：情報目録共通化、ICT連携、配架構成、資料入替え。(動かない本が並んで)
  - 職員：兼務辞令、専門的研修、中央館職務連携、職員組織化。(利用者要求に個人対応)
  - 施設：客層と要求を知るセビニ店舗商売のしつらえと居心地を(狭い店で孤立無援で)
- 図書館施設網の再編では、中央館は利用頻度の低い資料の収容と新鮮資料の供給を担う。「分館」は「子ども資料・読み物・居場所・情報端末」「情報水道の蛇口化」を重視する。

### 市役所内の議会図書室の将来像や

### □類縁施設としての公民館図書室の課題とは： 全市図書館システム連携も研究する。

- 分館として位置づけられていない公民館図書室(大浦会館・城南会館・まなびあむ)は、近隣在住の長年の固定的利用者に利用されている。が、全国公民館図書室の先例のように、限定的な室規模や資料費規模や運営体制のためサービスの質と量に経年成長が見られない。その魅力と利用者階層や利用数の増大が図られない体制的課題を、将来に渡り抱えている。
- 地域生活支援拠点としての図書分館でない。(センターから資料供給やネットワーク運営がない)
  - 中央図書館との役割分担、限定的開架室での効果的資料表現が弱い。(つながらない)
  - 魅力が低い(情報ツールがない、本が古く少なく貸さない、居心地が悪い、職員に頼れない)
- 図書館施設網の再編にともない「図書館サービスの地域拠点」と位置づけられた図書室は、分館化やネットワーク化の研究を進める。

### □連携が模索される小中学校図書館の課題とは：

- 少ない資料環境や司書教諭担当職の繁忙な現状がある。他方、朝読書の普及や学級文庫による読書環境の担保もあり、市民ボランティアや公共図書館の出張奉仕が25校学校図書館の支えとなっている。が、教育を支える効用や情報センター図書館への成長/展望は見えない。焦点は、文科省が長年進める「学校図書館整備等5ヵ年計画」理念の具体化にある。
- 学校図書館図書標準にもある「毎年の充分な図書資料費の補填」(補助金の活用)
  - 学校図書館の「情報センター」としての資料構築と、利用リテラシー教育(スキル習得)
  - 教師と学校図書館を支える「学校司書」の配置。(授業や公共図書館との連携コーディネイト)
  - 学校図書館の投資効果を自己検証する統計分析と研究。(先進事例の教研連携型研究)
- 学校教育センターとしての学校図書館像、公共図書館基本計画での連携支援策を研究する。

### ※フロン2020年問題と東館・西館施設大改修工費の発生

30年前導入の空調機冷媒フロン22は条約で世界的に生産が中止され、代替フロンR410に転換が進みます。地球環境問題への施設対応ですが、この時、天井内の室内機や室外機や配管の全交換が必要で大工事費となります。当面は移行の過渡期で、R22残材での補充や、交換部品が無い旧内外機器の修繕でしのいでいますが、2026年付近が限度で、将来的施設対応対策が喫緊です。

### ※建築30年東西館施設維持改修

建築施設を長く使い続けるために、定期的維持改修工事費が必要です。屋上屋根防水、鉄部や外壁メンテ、給排水配管トイレ改修、断熱性能向上やLED照明省エネ化も必要です。両館維持に大経費が予測されます。

### ※BMアトリーチャービス

自動車図書館(とくしま販売のように)による郊外地域や学校幼稚園などへの出張巡回サービス。

### ※「第2期舞鶴市まち・ひと・しごと創生総合戦略令和2年」

<いつまでも学び活動を続けることができるまちづくり> 27頁には

#### ○多様な学びと交流の提供

- ・住民1人ひとりが孤立することなく、地域社会を構成していくよう、社会的包摶に寄与する学びを提供します。

・公民館は地域の拠点施設として、幅広い世代の住民が集い交流する場を提供することで、地域の活性化と、地域課題への多世代連携による対応力を強化を図ります。

#### ○本を通じての学びや

- ・地域及び生活課題の解決支援
- ・読書会などの学びの場を設けるとともに、地域や市民生活の課題解決に役立つ情報を提供できるよう図書資料の充実を図ります。

### ※「舞鶴市教育振興大綱平成31年」

<舞鶴市総合計画>と<国の教育振興基本計画>にもとづく教育行政の基本方針 5頁と4頁には

#### ○学校公共図書館連携につながる、

4. 地域社会で支える教育と子育て支援の充実
  - (1)家庭・地域との連携による~
  - (2)社会教育団体等との連携~

#### ○学校図書館充実につながる、

2. 子どもを育てる教育環境の充実
  - (2)情報活用能力の育成をはじめ、教育の情報化を推進するための基盤となるICT(情報通信技術)環境の整備促進や~
  - 教育環境の充実を図ります。

など、このたびの図書館基本計画の上位計画としての方針がある。